

## 主題：ローマ人への手紙第5章から第8章——聖書の核心

### メッセージ 6

主に触れた状態を保つことによって命の霊の法則の中に生きて、  
神の永遠のエコノミーを完成する

聖書：ローマ8:2, 28-29. エレミヤ31:33. ヘブル8:10. 11:1, 5-6. 12:1-2.

II コリント4:13

- I. 新しい契約の中心、中心性は、命の霊の内なる法則です（ローマ8:2）。この法則は、  
神聖な命の自動的な原則、自然な力です（ヘブル12:1-2）：
- A. 要するに、この法則は神聖な命を指しており、この神聖な命は三一の神であり、彼はすべてを含むキリストの中に具体化され（コロサイ2:9）、命を与える霊として実際化されています（I コリント15:45. II コリント3:6）。三一の神は、すでに手順を経て究極的に完成されており、彼の選ばれた民のすべてとなっています。
  - B. その命によれば、命の霊の法則は三一の神であり、その機能によれば、それは全能の神聖な能力です。この能力は、わたしたちの中であらゆる事を行なって、神の永遠のエコノミーを完成することができます——ピリピ2:13. ヘブル13:20-21。
  - C. 命の霊の法則の神聖な能力は、キリストにある信者に神を認識させ、神を生きさせ、彼の命と性質において神で構成されるようにすることができ、それは彼らが神の増し加わり、拡大となり、彼の豊満となって、神を永遠に表現するためです——エペソ1:22-23. 3:19-21。
  - D. さらに、命の霊の内なる法則の能力は、わたしたちをあらゆる種類の機能を伴うキリストのからだに構成します——I コリント12:27. ローマ12:4-8. エペソ4:11, 15-16。
- II. わたしたちが主に触れた状態を保ち、わたしたちの霊の中で彼と接触した状態を維持するとき、命の霊の法則はわたしたちの中で自動的に、自然に、何の努力も必要とせず働きます——ヘブル11:1, 5-6. II コリント4:13. マタイ8:3, 15. 9:20-21, 29. 14:36. 17:7. 20:34. ヨハネ4:23-24. ピリピ2:12-13. ローマ8:2, 4, 6, 13-16, 23. I テサロニケ5:16-18：
- A. 命の霊の法則にわたしたちの中で活動していただくために、わたしたちは神を愛する必要があります。命の霊の内住する法則である、手順を経て究極的に完成された三一の神は、愛そのものです。彼がわたしたちの中で活動すればするほど、ますます彼はわたしたちが彼を愛するようにさせ、わたしたちを魅了して彼を愛するようにさせます——ローマ5:5. I コリント2:9. 16:22. I ヨハネ4:8, 16, 19. エペソ3:16-21。
  - B. 神を愛する者として、ダビデは麗しさとしての神を見つめることによって彼と接触し、彼を吸収しました（詩27:1, 4）。彼が神と接触して神を吸収した時、彼は照らされて、内側で救いを受けました。わたしたちの麗しさとしての神を見つめること

は、神の心の願いのゆえに彼を経験するための大きな鍵であり、大きな秘訣です（イザヤ60:7, 9, 13, 19, 21. II コリント3:18. エペソ5:26-27. 啓19:7）：

1. 「ありのままの自分で」（英語詩歌1048番）で始まる詩歌がありますが、この意味は、わたしたちはありのままの状態に神に来るべきであって、自分の状態を改善したり、変えたりすべきではないということです。わたしたちはこのようにキリストを受け入れたのであり、またわたしたちはキリストの中でこのように歩くべきです（コロサイ2:6-7前半）。
  2. 祈ることは、ありのままの自分で主に来ることです。主に来るとき、わたしたちは自分の内側の状態を彼の御前に置き、自分はあらゆる事で欠けている者であると彼に告げるべきです。たとえ、わたしたちが弱くて、混乱していて、言葉が出なくても、それでも神に来ることができます。わたしたちの内側の状態がどうであれ、わたしたちはそれを神にもたらしすべきです。
  3. 自分の状態を気にかけるのではなく、わたしたちは神の臨在の中に入って、彼に目を向け、彼を見つめ、彼を賛美し、彼に感謝をささげ、彼を礼拝し、彼を吸収することによって彼と接触する必要があります。そうすれば、わたしたちは神の豊富を享受し、彼の甘さを味わい、彼を光と力として受け、内側が平安に満ち、強くされ、増強されるでしょう。そうすれば、わたしたちは聖徒たちに言葉を供給するとき、彼と結合された状態に保たれる学課を学ぶでしょう——I ペテロ4:10-11. II コリント2:17. 13:3。
- C. 祈りの意味も、わたしたちが神を表現するためです。詩篇第27篇4節で、ダビデは、彼はエホバの麗しさを見つめるだけでなく、「彼の宮で尋ね求めること」を願うと言いました。尋ね求めるとは、わたしたちの内側で神に語っていただくことであり、それは祈りの中で神に語った言葉が実はわたしたちの内側での神の語りかけ、神の表現となるためであるということです：
1. 真の祈りは、わたしたちが神に来て、わたしたちの内側で神に語っていただき、わたしたちが神に語り返した言葉を神に言い表すことです。『『わたしの顔を尋ね求めよ』とあなたが言われるとき、あなたに向かって、わたしの心は言います、『エホバよ、あなたの御顔を尋ね求めます』』（8節）。
  2. わたしたちが真に神に触れ、神と接触し、神を吸収するとき、彼はわたしたちの内側で語ります。その時、わたしたちは彼の内なる語りかけにしたがって祈ります。祈るとは、神に行き、神と会い、彼に近づき、彼と交わり、彼を吸収することであり、それによって、彼はわたしたちに内側で語ることができます。わたしたちがわたしたちに対する彼の言葉をもって彼に祈るとき、わたしたちの祈りは神を表現します——ヨハネ15:7。
  3. わたしたちの祈りの第一の面で、わたしたちは神との交わりの中に入ります。その時、彼は働きに対する彼の負担をもってわたしたちに油を塗り、彼の意図をわたしたちに啓示します。わたしたちの祈りの第二の面は、彼のみこころと働きに対する彼の負担に関して、彼に懇願することによって主に尋ね求めることです。そうすれば、わたしたちは神と協力することによって祈りの目的を成し遂げて、神の同労者となります——イザヤ62:6-7. 45:11. エゼキエル22:30. ダニエル9:

2-4. サムエル上12:23. I コリント3:9. II コリント6:1前半。

4. 尋ね求める祈りは神を尊びます。ダビデはしばしばエホバに尋ね求めていたので、祈り方を知っていました（サムエル上22:10. 23:2, 4. 30:8. サムエル下2:1. 5:19, 23）。神が預言者ナタンを通してダビデに語りかけた後、ダビデは「エホバの御前に座し」（7:18）て、主に言いました、「あなたが語られたように行なってください」（25節後半）。そして、彼は神の語りかけのゆえに主に告げました、「あなたのしもべは、この祈りをあなたに祈る心を得たのです」（27節）。

D. キリストを命の霊の法則として経験する秘訣は、彼、すなわち、わたしたちを力づけて、いっさいの事柄を行なうことができるようにする方の中にいることであり、彼の中にいることの秘訣は、わたしたちの霊の中にいることです——詩27:5. 31:20. 32:7. 119:114. 91:1-2. ピリピ4:13, 23. ローマ1:9. II コリント2:13。

E. わたしたちは祈りによって、依存の霊を持ち、主を呼び求め、彼との交わりを維持することによって、命の霊の法則としての、内住の、設置された、自動的な、内で活動する神と協力しなければなりません——ローマ10:12-13. 創13:18. I テサロニケ5:17. エペソ6:17-18. ピリピ4:5-7, 12-13。

F. わたしたちはわたしたちの霊に注意を払い、わたしたちの心を護衛することによって、命の霊の法則としての、内住の、設置された、自動的な、内で活動する神と協力しなければなりません。霊は神の命と接触するための器官ですが、心は鍵、スイッチ、戦略上のポイントであり、神の命がわたしたちの中へと分与され、わたしたちの中で自由に活動することができるようにします——詩78:8. マラキ2:15-16. 箴4:23. エゼキエル36:26. エペソ3:17. マタイ5:3, 8。

III. 神はご自身を命の霊の法則としてわたしたちの中へと分与することによって、彼の永遠のエコノミーを完成します。それによって、わたしたちの存在は彼の存在をもって構成されて、彼の存在を持った一つの構成体となります——ローマ8:2, 10, 6, 11, 39 :

A. 神はご自身の神聖な命をわたしたちの中へと分け与えることによって、この最高の命の最高の法則（単数——エレミヤ31:33）を、わたしたちの霊の中へと入れます。この法則はわたしたちの霊から、わたしたちの内側の各部分の中へと、例えば、わたしたちの思い、感情、意志の中へと拡大し、いくつかの法則（複数——ヘブル8:10）となります :

1. 主は拡大し、分け与え、書き記しているとき、アダムの古い要素をわたしたちから減少させ、キリストの新しい要素をわたしたちの中へと加えて、わたしたちのために命の造り変えを新陳代謝的に成し遂げます——II コリント3:18。

2. わたしたちの内側で命の法則が働き、拡大することによって、神はわたしたちを、命、性質、表現において彼と同じにします。わたしたちは、命の霊の法則の働きによって、神の長子のかたちと同形化されます——ローマ8:2, 28-29。

B. 長子がわたしたちのためにとりなしているのは、彼がわたしたちの霊の中へとまいりた命が動機づけられて、成長し、発展し、わたしたちの内側のすべての部分に浸透するためです。ついには、栄光が現されて引き上げられた彼の存在をもって、わたしたちは完全に飽和されるようになります——ヘブル7:26. ローマ8:34. マルコ4:3, 14, 20, 26-29 :

1. 多くの時、祈りにおけるわたしたちの発言は、天的なとりなしの引用句です。わたしたちの霊的な生活の中で起こることは何でも、天的なとりなしか、それに対する反応のどちらかです——ローマ8:26-27。
  2. 一方で、主は成長する命としてわたしたちの中にいますが、もう一方で、彼はわたしたちの内側にまいた種が成長し発展するために、天の御座でとりなしています——10,34節. ヘブル7:25。
  3. 神聖な命がわたしたちの中で成長しているとき、命の霊の法則は機能して、神の長子であるキリストのかたちに、わたしたちを形づくり、同形化します。それは、わたしたちが彼の団体の表現となるためです。命の霊の法則は、悪いことを行なうことからわたしたちを規制するのではなく、命の形状を調整します——ローマ8:2, 28-29。
  4. 内住する原型である神の長子は命の霊の法則として、わたしたちの中で自動的に働いて、わたしたちを彼のかたちに同形化し、「息子化」します。主はわたしたち一人一人を長子と同じにするために必死に働いています。
  5. この原型を大量に再生産する神の方法は、彼の生ける原型である神の長子を、わたしたちの全存在の中へと造り込むことです。もしわたしたちがこのすばらしい原型と協力し、受け入れるなら、彼はわたしたちの霊から魂へと外側に向かって拡大していきます。
  6. 長子は、神の多くの子たちを大量に再生産するための原型、標準モデルであり、子たちは彼の多くの兄弟たちであり、新しい人である彼のからだを構成して、神の長子である標準モデルの団体の再生産また表現となります——29節。
  7. 命の霊の法則の主要な機能は、消極的な意味で、わたしたちに何をすべきでないかを告げることではありません。むしろ、命が成長するとき、命の霊の法則の機能は、積極的な意味で、わたしたちを形づくること、すなわち、キリストのかたちに同形化することです。命の霊の法則の機能を通して、わたしたちはみな神の円熟した子たちとなり、そして神は彼の宇宙的な団体の表現を持ちます。
- IV. 究極的に、わたしたちが命の霊の内住の、自動的な法則を享受することは、キリストのからだの中にあり、キリストのからだのためであって、わたしたちを神格においてではなく、命、性質、表現において神と同じにすることを目標としており、彼の永遠のエコノミーの目標である、新エルサレムを完成します——2, 28-29節. 12:1-2. 11:36. 16:27. ピリピ1:19. 参照、ガラテヤ1:15-16. 2:20. 4:19, 26-28, 31。